

2007年3月22日

発行者：鈴木壮夫

河北新報

2007年(平成19年)

3月1日(木)

夕刊

母校に別れのエール

宮城県内の公立高校九十四校で一日、卒業式が行われた。二〇〇七年度から男女共学となる仙台二高(青葉区)では、男子校として最後の卒業生三百二十人がスーツや紋付きほかまに身を包み、思い出の詰まった母校に別れを告げた。

卒業生一人一人の名前が呼び上げられ、柏葉浩明校長が卒業証書を授与。合間に卒業生が「仰げば尊し」を熱唱したり、寸劇を披露したりする演出もあり、保護者らの笑いを誘った。厳肅な中にも自由闊達(かつたつ)な同校の雰囲気が表示された。

式となった。

柏葉校長は「自分の中の脈を発見する努力をし、生命を打ち込めることのできる仕事を見つけたい」と激励。同校同窓会会長の西澤潤一・首都大学東京学長は「皆さんは、仙台二高の伝統に影響を受けたDNAを持っている。本校卒業生にしかできない素晴らしい仕事をしてみたい」とはなむけの言葉を贈った。

同校の共学化をめぐるでは、同窓会などの反発で実施が一年延期となった。卒業生代表の上野純也君は「さらなる進歩を求めて新たな一歩を踏み出すことも大切。在校生の皆さんは『新生仙台二高』をつくってほしい。私たちはいつまでも見守っている」と述べた。

2月28日～3月1日の両日、11回期生の集まりが松島と仙台で開催され、楽しんできました。3月1日の河北新報の朝刊一面トップは“浅野氏、都知事選出馬へ”でした。社会面には前夜の仙台行き最終の新幹線車中でのインタビュー記事も掲載されておりました。浅野氏一色という紙面を拝読しながら松島から仙台に出ました。風は強い日でしたが雲ひとつない晴天でした。県立美術館への途中、母校の校門の両側に日の丸がはためいており、「第59回卒業式」という立て看板が眼にとまりました。美術館にて特別展を鑑賞、母校にも寄ってみました。依然として風が強く、校内の樹木の枝に風が吹き抜けゴゴゴと音をたてていました。48年振りの卒業式でした。校内を散策、在校当時柔道場があった付近で卒業生の校歌斉唱が頭上から聞こえてきました。元気な張りのある若者の歌声でした。はるか昔を思い出し、感慨に耽り、やる気も湧き出てきました。48年前がそこかしこに“実存”しているのです。自分自身の“場”が受け継がれていることの幸せに感謝の気持ちでいっぱいでした。当日の河北新報・夕刊一面の中段に写真入りで“男子校としての最後の卒業式”が報道されておりました。上段の切り抜きです。帰りの新幹線車中で読みました。へー、そうかな？とクビを傾げたくなる記述もありました。「厳肅な中にも自由闊達な同校の雰囲気が表示された」という表現に違和感を覚えたのでした。「自由闊達」は在校時代、二高では希薄で、むしろ一高に根付いていたのではないかと私は思う。一高に追い付き、追い越せと校長先生自ら生徒にハッパをかけまくった“兵学校”そのもので、「自由闊達な雰囲気」という文化的(?)でオトナの環境では無かったと私は思うが皆さんのイメージは如何でしょうか。母校が“進化”したのかな？

(1) 『 女子合格者 70人 』

3月13日、2007年度一般入試の合格発表が行なわれ、二高は受験した女子58人のうち43人が合格した。推薦、一般を合計した女子合格者は70人で全体(322人)に占める割合は21.7%だった。在仙の同期生から河北新報の記事とコメントがFAXされてきた。本来なら一女高に進学する優秀な女子が二高生になる。その結果、3年後の大学入試ではそれなりの成果が今から確実視されているとのこと。追伸に「ソープもオレも合格できないっちゃ!」と。

柏葉浩明校長先生よりお便りをいただき「いよいよ具体的な受け入れ作業に着手いたします。入学式の式辞では心からの歓迎と未来のリーダー達への期待を伝えたいと思っております」と決意を述べられておられた。3月19日、お礼の電話を差し上げ、男子・在校生達の最近の動き・感情をお尋ねした。『新生仙台二高』をつくるという気概を感じるとのことでした。先月の第29号にも書きましたが“15才の春、ともにともにいそしみ、21世紀の社会に貢献できる若者に育って欲しいと私は二高生にエールをおくります。

(2) 『 宮城一女高、「宮城第一高」 に改称 』

一女高は2008年度の男女共学化を機に校名を「宮城県宮城第一高校」に変える方針が明らかになり波紋を広げている。卒業生は「第一」が残るのが救いとおおむね好意的。しかし、長く「一高」と呼ばれた仙台一高の関係者は「一高」が二つあっては紛らわしいと収まらず、同校の同窓会は近く県教委に声明文を提出する予定で、一高の本家争いにも発展しかねない勢いと河北は報じております。(3月14日)

(3) 本日、第249回北社会

和田信彦氏(高17回)に「土壌汚染リスクと不動産」を講演いただきます。土地や地下水の汚染の調査・実態・対策等、興味が尽きません。尚、同氏の趣味は自転車ツーリングで群馬から川越の当店までひと走りの時もありました。お姉さんは私と上杉山中の同級生でした。才色兼備の姉御で50年経った今でもアタマが上がりません。

(4) 来月の北社会予定

4月18日(水) 講師・阿部孝氏(高27回)

「インターネット、その進化する世界 ウェブ 2.0 』

＊お願い＊

北社会の運営、講師の自薦他薦、世話人へ一言、等々何でもお気軽に世話人にお問い合わせをお願いします。世話人の私が言うのも無責任かもしれませんが、もっと新しい、価値ある北社会に育て上げたいのです。会員ひとりひとりの充実のために!